

建築・空間分野 | 量産型住宅 | 奨励賞(審査委員長賞) 011

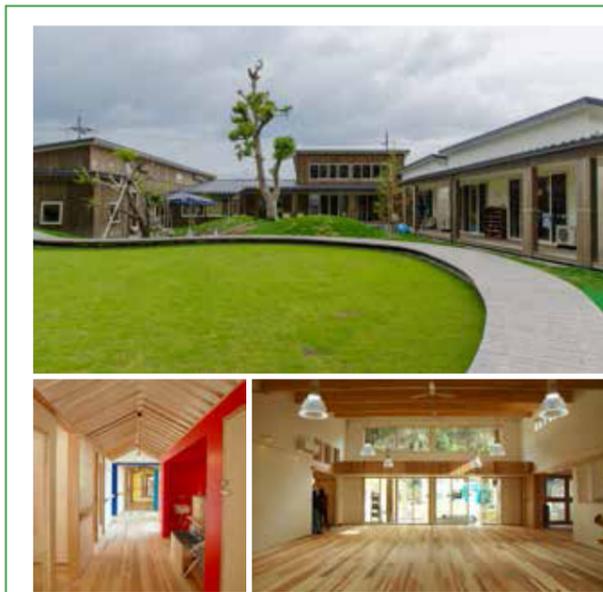
**あたらしい家 校倉**  
伊佐ホームズ株式会社

**概要**

「あたらしい家 校倉」は日本の「木」の文化や伝統を大切にしながら、住宅を構成する要素をシンプルにすることで、デザインや品質の向上とコストダウンを追求した家である。平面は4間(7.272m)角の4隅に1間×1.5間(1.818m×2.727m)のユニットを配置した正方形のプランに、玄関スペースが加わった形態である。内外装の仕上材に天然の木材を多く使用しながら、全ての工程において合理化を実現した。どのような町並みにも調和出来るよう、パネル化した杉板の外壁と方形の屋根で構成されたシンプルな外観となっている。

◆<http://www.isahomes.co.jp/azekura/index.html>  
仕様: 木造2階建 延床33坪  
参考価格: 2,475万円(税別)  
入手先: 伊佐ホームズ株式会社

**評価ポイント** 木質住宅のシステムモジュールは斬新、4間角の平面と自由で可変性あるユニットのシンプルな構成で空間を自由にデザインできるフレキシビリティが良い。時間とともに変化する家族構成、ライフスタイルの変化に応える現代的な発想がある。



建築・空間分野 | 保育園・幼稚園 | 奨励賞(審査委員長賞) 012

**やまなみ保育園**

m-di空間デザイン、社会福祉法人清菱会、株式会社設計工房α、株式会社スタジオゲンクマガイ、株式会社和晃建築

**概要**

福井県小浜市の保育園。将来を担う子どもの感性を豊かなものに、また地元への誇り・愛着を感じられる保育園にしたい、という要望を受けました。そこで福井県産材の「杉」を用い、園児の五感に働きかけ体験を豊かにする生活空間として園舎・園庭をデザイン。既存の遊び遊具にとられない、子どもの育ちにとって重要な感性へ響く仕掛けを設けた保育園とすることに注力しました。その過程におき「杉材」の価値の再定義を行い、その中で地元工務店とタッグを組み、建築を通じた地域の魅力の再発見も目指しました。

◆<http://seiryu-kai.jp/yamanami/>  
仕様: 木造平屋

**評価ポイント** 県産材の杉を用いて、園児の感性を伸ばす生活空間としての工夫が凝らされた園舎・園庭のデザインである。幼児期の多くの時間を過ごす保育園において、地域のこと、木材のことを空間を通じて伝えることで生活の一部に木があることを教えている。



木製品分野 | 雑貨・日用品 | 奨励賞(審査委員長賞) 013

**ケロリン木桶**

内外薬品株式会社、志水木材産業株式会社、長野県

**概要**

解熱鎮痛薬「ケロリン」の広告媒体として誕生した「ケロリン木桶」。50年の歴史を経て、初めての木桶バージョンが誕生しました。「ケロリン木桶」は、長野県の「木の文化の再生」を目指した取り組みに賛同して発売しています。木材は木曽のサワラを利用し、桶の底に「ケロリン」のロゴデザインの焼印を押しています。なお、本製品の販売収入の一部は、長野県の「森林(もり)の里親制度」の取組として、木曽広域連合が運営する「水源の森基金」へ寄付されます。

◆<http://www.naigai-ph.co.jp/information/entry-000219.html>  
<http://shimizumokuzai.jp/itemdetails?id=1>  
<http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyo/sangyo/ringyo/kensanzai/okearu.html>  
仕様: 直径245mm×高さ120mm  
価格: 4,000円(税抜)  
入手先: 東急ハンズ長野店、銀座NAGANO

**評価ポイント** 銭湯をメディアにした、木のある暮らしの提案である。身近で見慣れた製品の素材を木に転換することで、木の良さを再認識させるユニークな発想。分野を超えたものづくりやモチーフの転用は、今後の木材利用の大きな切り札となり得る。



技術・研究分野 | 調査・研究  
優秀賞(林野庁長官賞)

**RC/S造建築物における  
内装木質化設計マニュアルの作成**

公益財団法人木材・合板博物館

**評価ポイント** 内装の木造化、木質化のための実践的なマニュアルであり、木を使った設計、デザインの質向上につながる社会性の高いものである。煩雑な情報を丁寧に積み上げており、設計の際の使い勝手の良さとともに、新たなデザインアイデアにつながるようなクリエイティブ・ツールとしても役立ちそうである。

**概要**

建築士が設計上RC/S造建築物内装の木質化を設計する上で「防火規制」の諸規程をいちいちチェックするのは面倒である。「内装木質化ハンドブック」は、この理由から木質化が推進されていない現状を打破するものであり、国土交通省の営繕部等第三者からも高い評価を得ている。また施工者が消防の検査を受ける場合でも、このマニュアルが役立つように、素人でも判り易い内容になっている点特徴である。建築基準法等の防火規制は人命を守るための規制として厳守すべきだが、「木」は今後インテリアデザイナーや建築士による、センスあるデザインの中で主張されるべき素材である。木造化、木質化による「木」の活用は、とかく構造物ばかりに目が向けられるが、首都圏で高層ビルが立ち並ぶ中で、構造部分の木質化が不可能だとしても、内装の木質化は可能であり、このことは「木」の需要増加に繋がる。

◆<http://www.woodmuseum.jp>  
仕様: 全77ページ (一部カラー)  
価格: 2,000円(消費税、送料別)  
入手先: 博物館HP (<http://www.woodmuseum.jp>)

010